新潟県

新潟県の経済動向

令和８年11月10日

県内経済の概況（令和８年８月～10月）

県内経済は、原材料価格等の上昇による影響などがみられるものの、持ち直している。

・個人消費・物価は、改善の動きがみられるものの、一部に弱い動きもみられる。
・住宅投資は、下げ止まりの動きがみられる。
・公共投資は、持ち直しの動きがみられる。
・設備投資は、回復している。
・生産は、下げ止まりの動きがみられる。
・企業は、改善しているものの、一部に弱い動きもみられる。
・雇用は、おおむね横ばいとなっている。

【 参 考 】

○国内経済の動向（内閣府「月例経済報告」令和８年10月27日）

景気は、緩やかに回復しているが、中東情勢の影響を注視する必要がある。

・個人消費は、持ち直しの動きがみられる。
・設備投資は、持ち直している。
・輸出はこのところ持ち直しの動きに足踏みがみられる。
・生産は、総じてみれば持ち直しの動きがみられる。
・企業収益は、改善しているが、中東情勢の影響を注視する必要がある。
企業の業況判断は、全体としては改善の動きがみられる。ただし、中東情勢の影響を引き続き注視する必要がある。
・雇用情勢は、改善の動きがみられる。
・消費者物価は、このところ上昇している。

新潟県総務部統計課
担当：調査解析班　土屋・小林
電話：025-280-5122
（内線 2448）
ngt010190@pref.niigata.lg.jp

前回からの変化方向

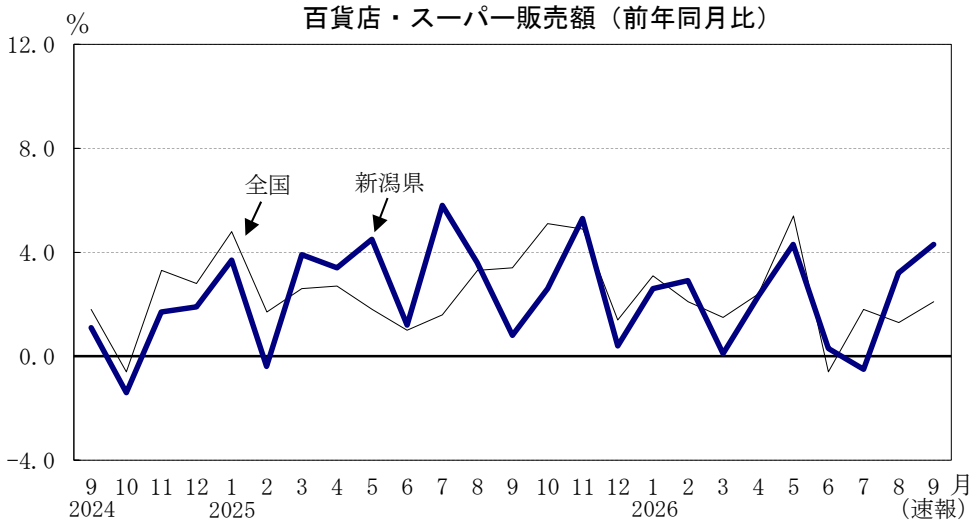
	前回（令和８年 10 月公表）	方向	今回
全　体	県内経済は、原材料価格等の上昇による影響などがみられるものの、持ち直している。	⇨	県内経済は、原材料価格等の上昇による影響などがみられるものの、持ち直している。
個人消費・物価	改善の動きがみられるものの、一部に弱い動きもみられる。	⇨	改善の動きがみられるものの、一部に弱い動きもみられる。
住宅投資	下げ止まりの動きがみられる。	⇨	下げ止まりの動きがみられる。
公共投資	持ち直しの動きがみられる。	⇨	持ち直しの動きがみられる。
設備投資	回復している。	⇨	回復している。
生産	下げ止まりの動きがみられる。	⇨	下げ止まりの動きがみられる。
企業	改善しているものの、一部に弱い動きもみられる。	⇨	改善しているものの、一部に弱い動きもみられる。
雇用	おおむね横ばいとなっている。	⇨	おおむね横ばいとなっている。

1　個人消費・物価　～改善の動きがみられるものの、一部に弱い動きもみられる～

○　百貨店・スーパー販売額

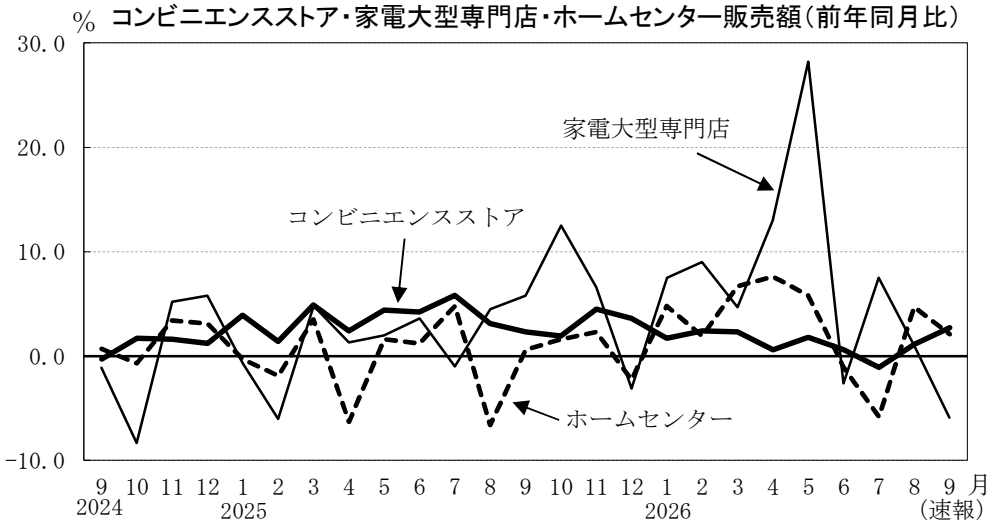
９月の百貨店・スーパー販売額の速報値は、全店で365億円となり、前年同月比4.3%増加し、２か月連続で前年同月を上回った。

なお、８月の確報値は、全店で427億円となり、前年同月比3.2%増加し、前年同月を上回った。



○　コンビニエンスストア・家電大型専門店・ホームセンター販売額

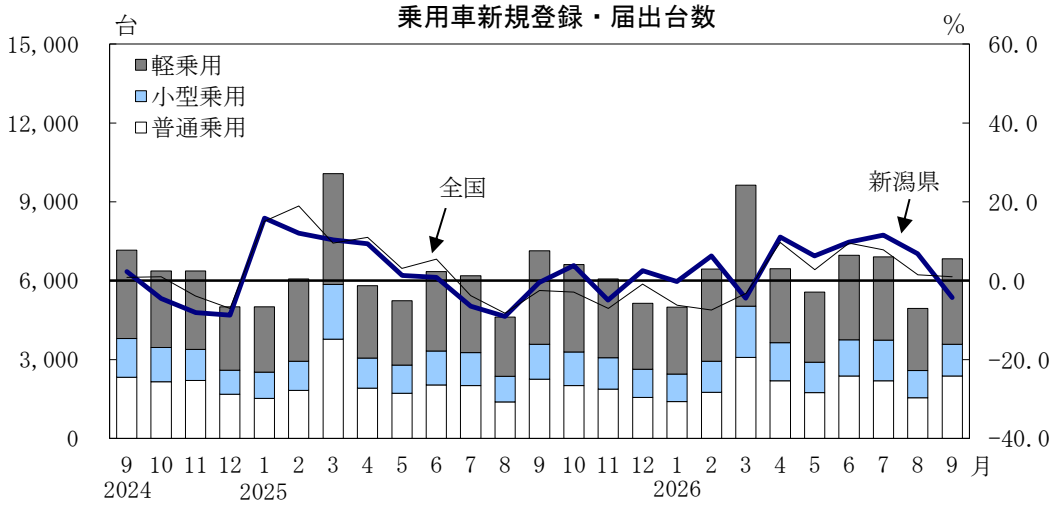
コンビニエンスストア販売額の９月速報値は162億円となり、前年同月比2.7%増加し、２か月連続で前年同月を上回った。また、家電大型専門店販売額の９月速報値は50億円となり、同5.9%減少し、３か月ぶりに前年同月を下回った。ホームセンター販売額の９月速報値は69億円となり、同2.1%増加し、２か月連続で前年同月を上回った。



○　乗用車新規登録・届出台数

９月の乗用車新規登録・届出台数は6,833台となり、前年同月比4.2%減少し、６か月ぶりに前年同月を下回った。

車種別では、普通乗用が前年同月比5.4%増加し、小型乗用が同8.9%、軽乗用が同8.6%それぞれ減少した。



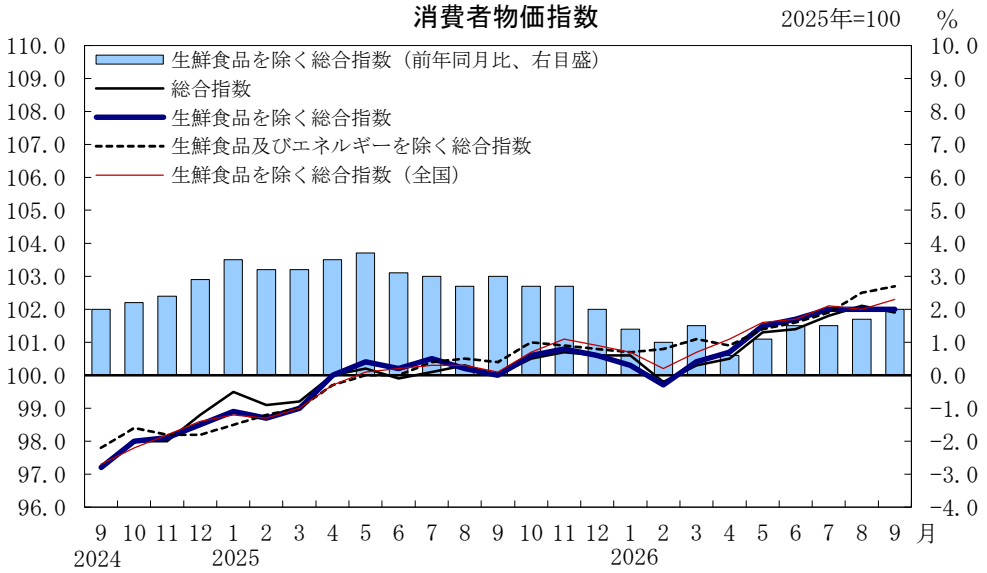
注：棒グラフは新潟県の実数で左目盛、折れ線グラフは前年同月比で右目盛

○　消費者物価指数

９月の新潟市消費者物価指数（生鮮食品を除く総合）は102.0となり、前年同月比2.0%上昇し、４年11か月連続で前年同月を上回った。

費目別では、自動車等関係費、教養娯楽サービスなどが前年同月比で上昇し、穀類、授業料等などが下落した。

なお、総合指数は101.9で前年同月比1.9%上昇し、４年11か月連続で前年同月を上回った。生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は102.7で、同2.3%上昇し、４年６か月連続で前年同月を上回った。



注１：折れ線グラフは指数で左目盛、棒グラフは前年同月比で右目盛

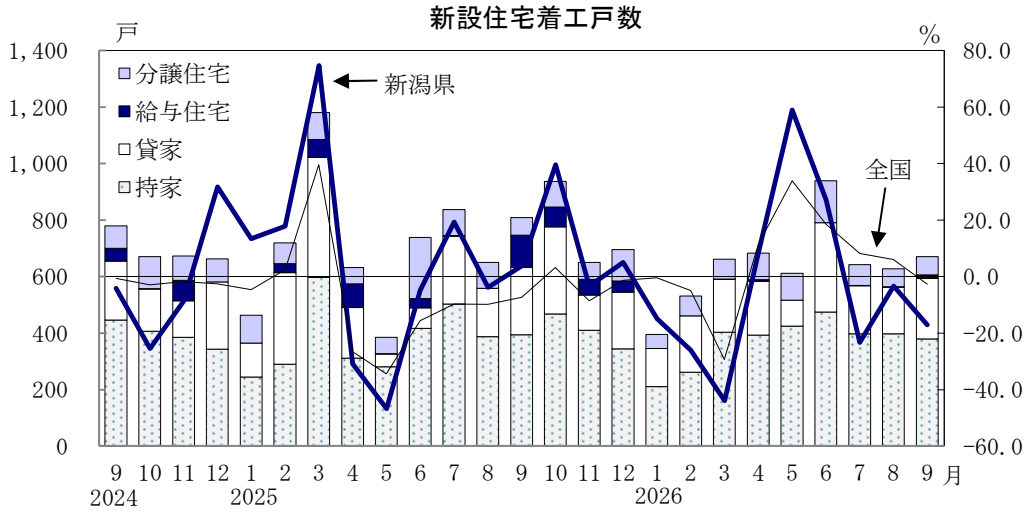
注２：全国の記載がない凡例は新潟県を示している。

2　住宅投資　～下げ止まりの動きがみられる～

○　新設住宅着工戸数

９月の新設住宅着工戸数は671戸となり、前年同月比17.1％減少し、３か月連続で前年同月を下回った。

利用関係別では、持家が前年同月比3.6％、貸家が同10.1％それぞれ減少し、分譲が同4.8％増加した。



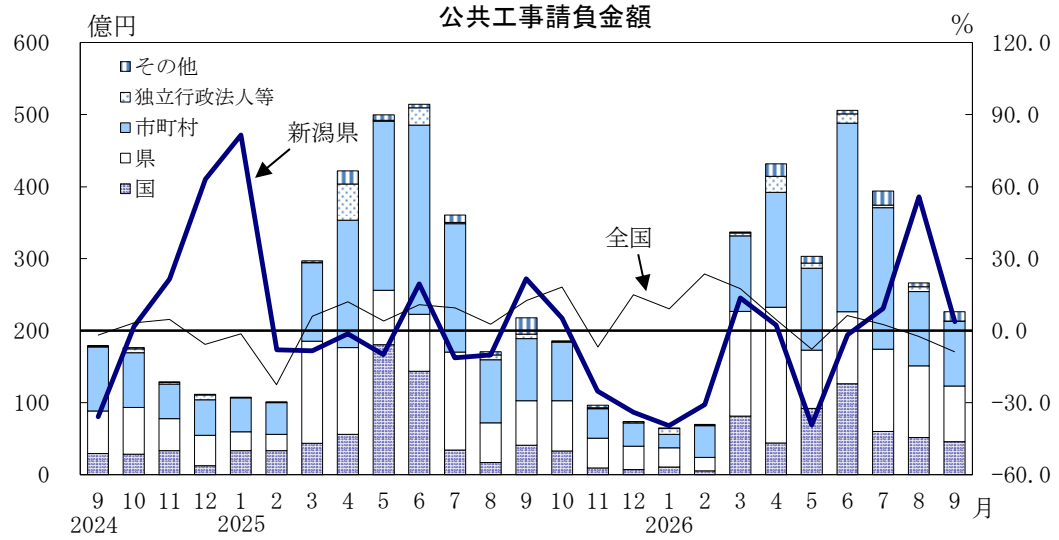
注：棒グラフは新潟県の実数で左目盛、折れ線グラフは前年同月比で右目盛

3　公共投資　～持ち直しの動きがみられる～

○　公共工事請負金額

９月の公共工事請負金額は226億円となり、前年同月比3.8％増加し、３か月連続で前年同月を上回った。

発注者別では、国は前年同月比12.4％、県は同25.1％、市町村は同3.9％それぞれ増加し、独立行政法人等は同88.4％減少した。



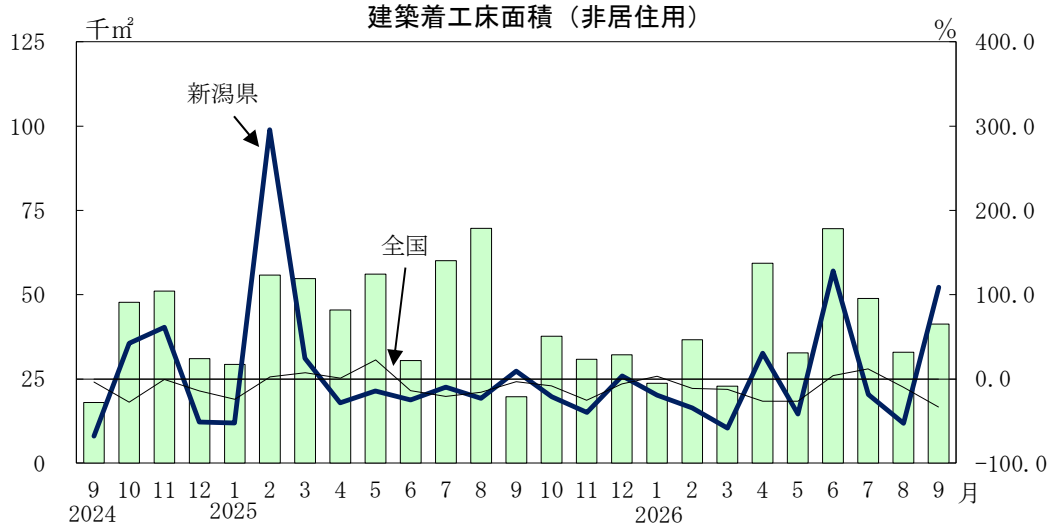
注：棒グラフは新潟県の実数で左目盛、折れ線グラフは前年同月比で右目盛

4　設備投資　～回復している～

○　建築着工床面積（非居住用）

９月の建築着工床面積（非居住用）は、41,338㎡となり、前年同月比109.1％増加し、３か月ぶりに前年同月を上回った。

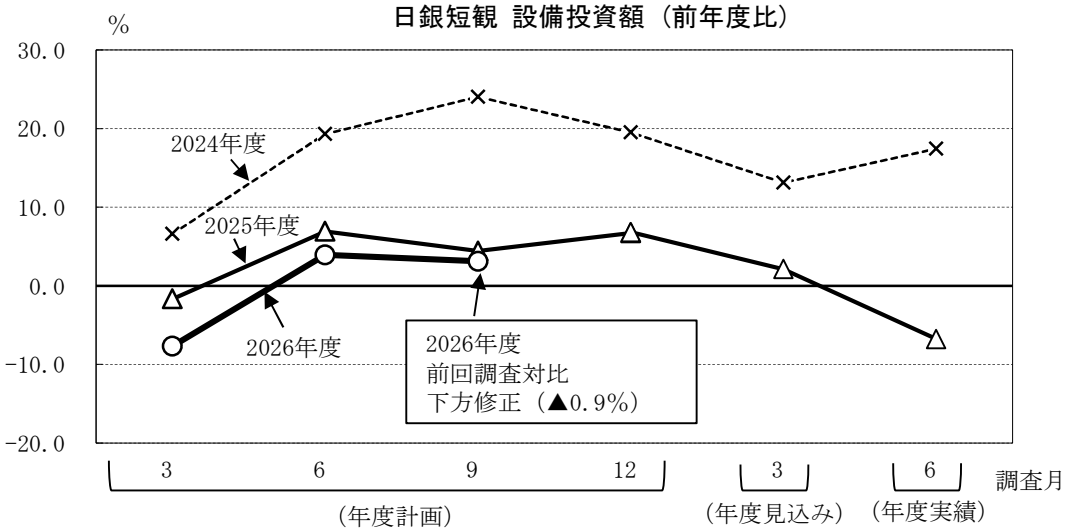
用途別にみると、その他のサービス業用、宿泊業，飲食サービス業用、農林水産業用などが前年同月を上回った。



注：棒グラフは新潟県の実数で左目盛、折れ線グラフは前年同月比で右目盛

○　企業の設備投資額

2026年度の企業の設備投資額（日銀短観・2026年９月調査）は、全産業で前年度比3.1％増加の計画となっている。製造業では前年度比4.0％減少と、前年度を下回るものの、非製造業では同16.8％増加と、前年度を上回る計画である。前回調査対比では、全産業で下方修正となった。



注：2026年３月調査から対象企業の見直しが行われたことから、2025年12月調査は新旧の数値を併記。

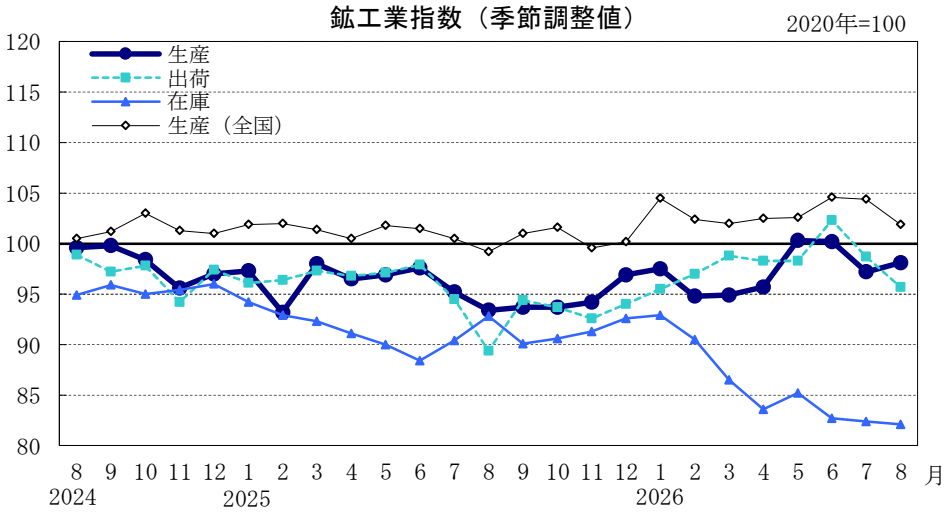
5　生　産　～下げ止まりの動きがみられる～

○　鉱工業指数

８月の鉱工業指数（季節調整値）は、生産指数が98.1となり、前月比0.9%上昇し、３か月ぶりに前月を上回った。前年同月比（原指数）では5.1%上昇し、４か月連続で前年同月を上回った。

業種別にみると、化学工業が前月比5.7%、電気・情報通信機械工業が同13.3%、電子部品・デバイス工業が同3.8%それぞれ上昇するなど15業種中６業種が上昇した。

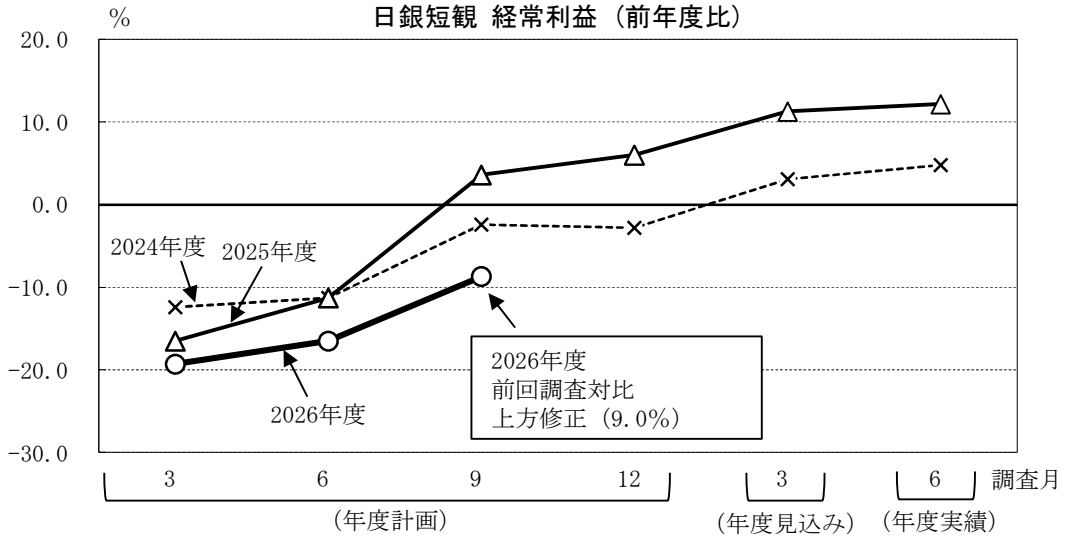
なお、出荷指数は95.7となり２か月連続で前月を下回り、在庫指数は82.1となり３か月連続で前月を下回った。



6　企　業　～改善しているものの、一部に弱い動きもみられる～

○　企業収益

2026年度の企業の経常利益（日銀短観・2026年９月調査）は、全産業で前年度比8.7%減益の計画となっている。製造業では前年度比12.1%減益、非製造業では同4.7%減益と、ともに前年度を下回る計画である。前回調査対比では、全産業で上方修正となった。

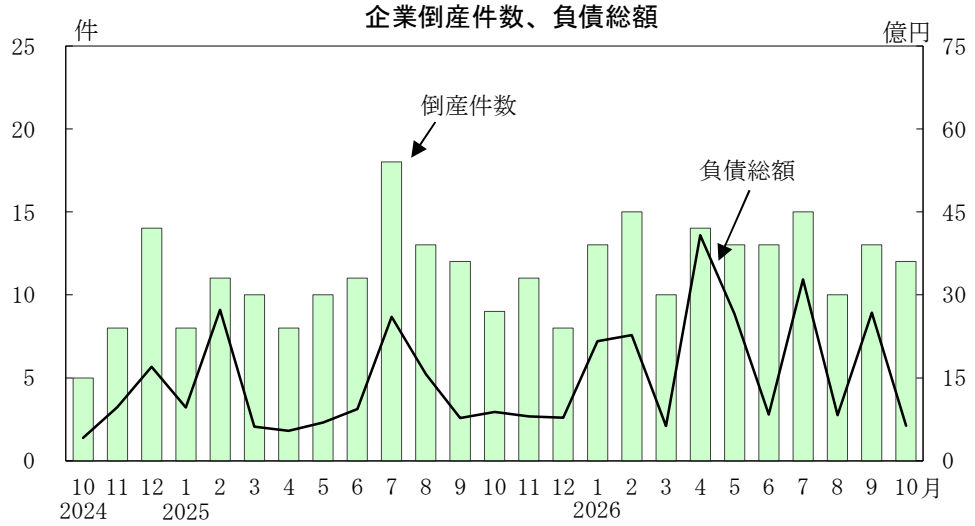


注：2026年３月調査から対象企業の見直しが行われたことから、2025年12月調査は新旧の数値を併記。

○　企業倒産

10月の倒産件数（負債額1,000万円以上）は、12件となり、前年同月比33.3%増加し、２か月連続で前年同月を上回った。

また、負債総額は6.4億円となり、前年同月比27.9%減少し、２か月ぶりに前年同月を下回った。負債総額10億円以上の大型倒産はなかった。

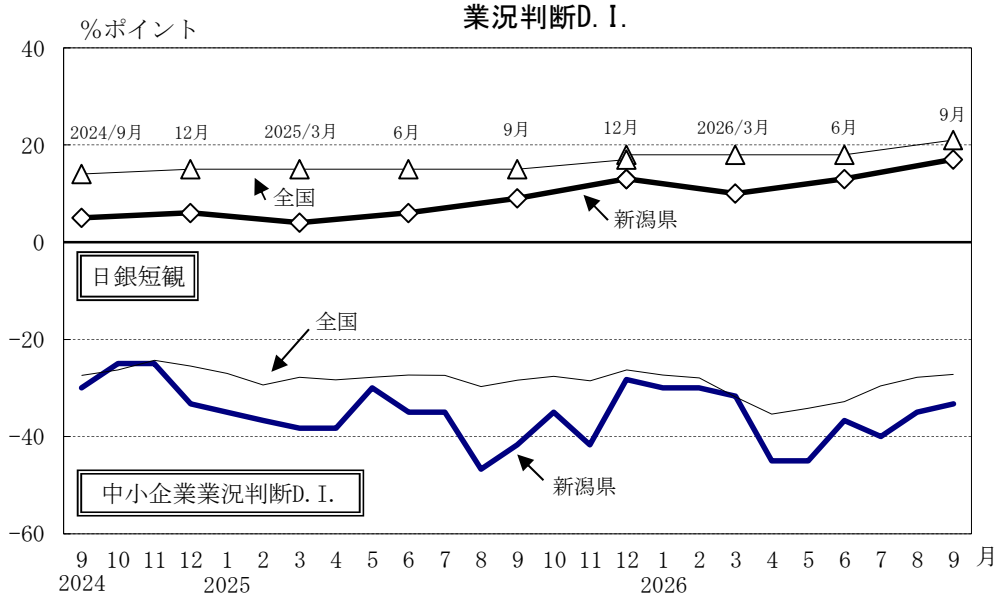


注：棒グラフは倒産件数で左目盛、折れ線グラフは負債総額で右目盛

○　企業の景況感

企業の景況感については、日銀短観（2026年９月調査）の業況判断D.I.は、17%ポイントとなり、前回調査から４%ポイント改善し、２四半期連続で前回調査から改善した。

また、９月の中小企業業況判断D.I.は▲33.3%ポイントとなり、前月から1.7%ポイント改善し、２か月連続で前月から改善した。



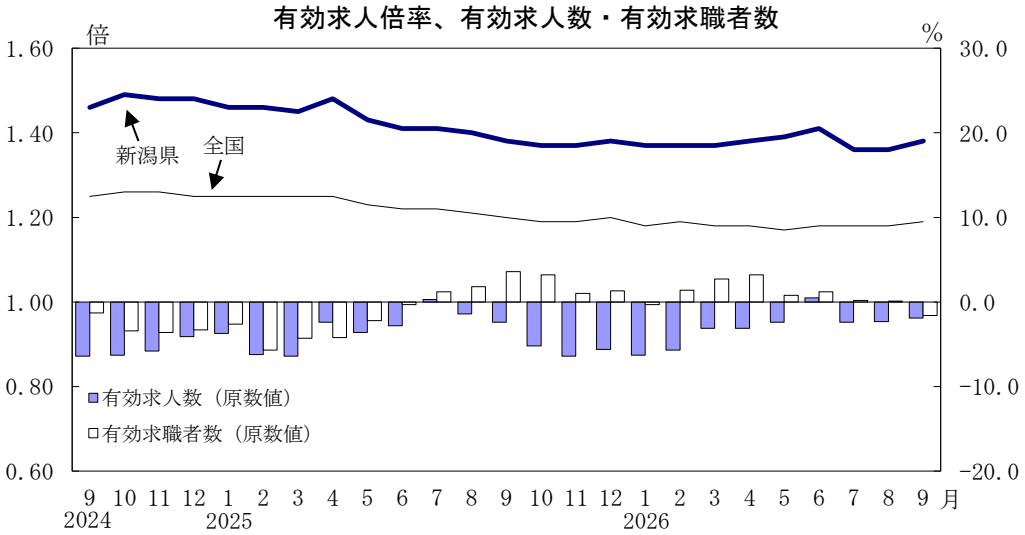
注：2026年３月調査から対象企業の見直しが行われたことから、2025年12月調査は新旧の数値を併記。

7　雇　用　～おおむね横ばいとなっている～

○　有効求人倍率

９月の有効求人倍率（パート含む全数・季節調整値）は、1.38倍で、前月から0.02ポイント上昇し、３か月ぶりに前月から上昇した。

有効求人数（パート含む全数・原数値）は、前年同月比1.9％減と３か月連続で前年同月を下回った。また、有効求職者数（同）は、同1.6％減と８か月ぶりに前年同月を下回った。



注：折れ線グラフは有効求人倍率で左目盛、棒グラフは前年同月比で右目盛